

令和5年度全建賞 推薦調書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふりがな	ひさいちようしゃとぼうさいせんたーのがつちくちようしゃしんちくせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	被災庁舎と防災センターの合築庁舎新築整備事業
2. 事業(施策)実施期間	令和2年12月16日 ~ 令和5年3月15日
3. 事業費(工事費)	9,700百万円
4. キーワード	熊本地震、被災庁舎の復旧、防災センターの機能向上
5. 事業概要	<p>熊本地震で大きな被災を受けた「熊本土木事務所庁舎」及び「熊本総合庁舎」を建て替える必要があった。また、県庁内の「防災センター」は、高層階(10階)設置や不十分な活動スペース等が課題となり、今後の大規模災害に備えた施設整備が必要となった。</p> <p>これらの課題を解消しかつ建物の有効活用や建設費の縮減を図るため、3つの施設を県庁敷地内に合築した。</p>

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 : 該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b) 既従の技術の創意工夫、活用 (d) その他 () ()	(a) 住民参画(ワークショップ等) () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a) 当該取組による本来目的の効果 (g) バリアフリー・ユニバーサルデザインの実現 (l) その他 ()	(a) 当該取組による本来目的の効果 () () ()

7. 特にアピールしたい点
<p>「大規模災害時においても防災拠点として十分な機能を発揮する」、「人と環境にやさしく、だれでもが快適に利用できる」、「熊本地震により整備することとなった県央広域本部の庁舎と防災センターを県庁敷地内に合築するメリットを十分発揮する」施設整備を行うことができた。</p> <p>施設整備にあたってはだれでもが使いやすい施設を目指し、設計段階から車いす利用者や障がい者等の方の意見を聞きながら計画を進めた。また、工事段階においてもそれらの意見を反映した多目的トイレ及び授乳室の実物大模型(モックアップ)を制作して、実際の使い勝手などを検証しながら施設整備を進めた。</p> <p>また、内装木質化の一つとして、東京 2020 オリンピック・パラリンピック選手村で使用された県産材(レガシー材)を壁面に展示・活用した。</p>

8. 事業を代表する写真及びキャプション



建物全景



1F エントランスホール



防災展示(プロジェクターマッピング)



東京オリンピックレガシー材再利用



1F 展示・学習室

9. 事業内容・添付資料

▶ 防災センターの概要

低層階に災害対策本部やオペレーションルーム等の災害対策の主要な指令機能を配置するとともに、政府現地対策本部や自衛隊等の応援機関の活動室を新設しました。九州を支える広域防災拠点としての機能強化を図っています。

2F オペレーションルーム

災害関連の情報などを一元的に集約するとともに、関係機関との情報共有を図り、救助部隊の活動調整等を行いながら災害対応を実施します。



豪雨対応訓練の様子

2F 災害対策本部会議室

大規模災害発生時等には、知事をトップとする災害対策本部会議を開催し、迅速な災害対応を実施します。平時は会議室として活用します。



災害対策本部会議室

1F 展示・学習室

熊本地震や令和2年7月豪雨をはじめ、過去に県内で発生した大規模災害の経験や教訓、災害発生メカニズム、防災の取組みが学べます。地域防災の担い手育成や、児童・生徒の防災学習の拠点となります。



展示・学習室



プロジェクションマッピング(地震編・風水害編・火山編)

▶ 県央広域本部の概要

4/5F 県央広域本部執務室



オープンで可変性のある空間にするとともに、フリーアドレスやワークスペースを導入しました。

また、庁舎内の無線LAN環境の整備や職員へのPHS配布なども合わせて実施することで、職員の働き方改革とDXを推進するとともに、組織の生産性向上を目指します。



ワークスペース

▶ 建物の概要

建物の有効活用と建設費の削減を図るため、災害対応等の指令塔となる防災センターと熊本地震で被災した熊本総合庁舎・熊本土木事務所(県央広域本部)を、合築により整備しました。

1 県民の安全・安心を守る庁舎

大規模災害に耐える庁舎

基礎免震構造とPCa(プレキャスト鉄筋コンクリート)構造により、大規模地震発生後直ちに災害応急対応の活動ができる環境を確保します。また、設備のエネルギー源の多量化等、復元力(レジリエンス)に優れた庁舎となっています。



免震装置



非常用発電設備



ヘリポート

災害に備えたライフライン等の確保

災害により電力や給排水等のライフラインが途絶した時にも、最低72時間は災害対策を継続できるよう、非常用発電設備、鋼板製一体型受水槽、緊急排水貯留槽等を備えた庁舎となっています。また、屋上にはヘリポートを整備しています。

2 人と環境にやさしい庁舎

ユニバーサルデザインへの配慮

シンプルでわかりやすい空間構成にするとともに、各階ごとに色を割り当てた「フロアカラー」を取り入れ、案内板には視認性を高めるゼブラ模様を導入しました。

また、地上各階には思いやりトイレとオストメイト対応トイレを設置したり、避難時における早い待機スペースを確保するなど、ユニバーサルデザインに配慮した庁舎となっています。



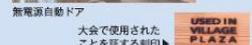
思いやりトイレ



ゼブラ模様を取り入れたサイン

環境と共生する庁舎

卓越風を使用した自然換気、自然採光の積極的な活用等、熊本の自然の恵みを有効活用した庁舎となっています。また、LED照明のほか、無電源自動ドアや地中熱による空調設備を導入する等、省エネルギー化に配慮しています。



無電源自動ドア

木材の活用

快適な空間づくりと地球温暖化防止につながるよう、庁舎内の壁や床、天井には木材を活用しています。また、1階の展示・学習室の壁面などには、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会選手村ビレッジプラザに使用された県産材を大会のレガシーとして再利用しています。

壁や天井の一部には、くまモンが隠れていますので、ご来庁の際には是非探してみてください。



大会で使用されたことを証する刻印

木材を活用した壁面



「ボクを隠して探しなさい」

©2019 熊本県くまモン

9. 事業内容・添付資料

◇ワークショップ【UD、実物大模型による検証、検証結果による対応等】

【設計時の取組概要】

開催	平成30年12月～令和2年1月まで 延べ6回開催
参加者	UD設計アドバイザー、職員、設計者等 延べ約50名参加
取組概要	・UD設計アドバイザーの助言を受けながら、災害弱者の避難誘導、トイレ、多目的トイレ、オストメイト、LGBT、身障者用駐車スペース、サイン、多言語表示等に関する設計の検討を行った。

【施工時の取組概要】

開催	令和3年10月～令和4年12月まで 延べ7回開催
参加者	UD設計アドバイザー、NPO法人、車いす使用者、職員、設計者、施工者等 延べ約170名
取組概要	・専門家（UD設計アドバイザー、NPO法人代表）や車いす使用者等の助言や意見を受けながら、UD研修、疑似体験、利用シーンや目的ごとの課題抽出、課題ごとの改善策及び実施の検討、サイン計画の検証等を行った。

【モックアップ（実物大模型）による検証等の取組概要】

開催	モックアップ（実物大模型）を令和4年6月6日～令和4年6月30日まで設置し、検証やヒアリング等を延べ9回開催
参加者	一般来庁者、車いす使用者、各福祉団体、UD設計アドバイザー、NPO法人、職員、設計者、施工者等 延べ約90名
取組概要	・多目的トイレ、ベビーケアルーム（授乳室）の各箇所の使い勝手や使い心地等を検証した。



【県庁新館1階（県民ホール）に設置した実物大模型】



多目的トイレ



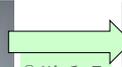
ベビーケアルーム



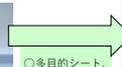
モックアップ検証前後の変更等

■モックアップ（実物大模型）検証時

□建物竣工時



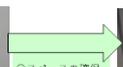
- ベビーチェア位置変更
- 面台高さ変更
- 鏡位置下げ等



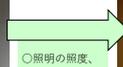
- 多目的シート、ベビーチェア等の位置変更
- 面台高さ、形状変更



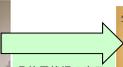
- 便座背もたれの位置変更



- スペースの確保
- 着替え台の変更
- 鏡、手すり、フックの設置変更



- 照明の照度、位置の変更



- 使用状況の表示、室名、サイン等の変更